

## 友の信義を糧として



法学部長  
 ながい 永井 和之  
ながい ながい かずゆき

多摩のキャンパスから、君たちは何回富士山を見ましたか。

私は、朝早く白い雪をかぶった富士山、赤い夕焼け空を背景に黒く浮かび上がったシルエットの富士山、台風一過の空に地肌をさらした富士山、君たちがこのキャンパスで学生生活を享受した四年間だけでも多くの富士山を見てきました。同じように、多摩キャンパスの桜の華も毎年見てきました。

そんな年次の季節が巡るように多くの卒業生を見送ってきました。これは卒業生を見送る教員としての正直な述懐です。

しかし、卒業される多くの諸君にとっては、生涯一度の大学の卒業とということになるであろう。そんな諸

君に一言いうならば、学生生活の折々に触れたであろう友の信義を、今後の人生の糧として欲しいということである。学生生活と社会生活の一番異なる点は、前者は自分の好きな、気の合う友とだけ付き合うことが許されているのに対して、後者では、自己の好き嫌いに関係なく、日常的に付き合わなければならぬ点である。そのような社会生活であればあるほど、信義に篤い人物の価値が増すと考えている。

卒業生諸君には、ぜひ信義に篤い人物として、社会的な評価を得ていつて欲しいと願っている。

諸君の前途洋々たることを祈念して、卒業のお祝いの言葉の結びとしたい。